

FROM KANSAI

湯と地域を温める木質チップ



龍神温泉は和歌山県中部の山間部にあり、湯を引いた7カ所の宿泊施設が立地する。肌をなめらかにする重曹泉で、「日本三美人の湯」の一つに数えられる。木質チップボイラーを導入しているのは、温泉街の中心から直線で約1.5キロ離れた旅館「季菜里龍神」。温泉は源泉からパイプを通じて運ばれるが、その過程で温度が低下するため、ボイラーで熱した湯でパイプを温め、温泉の温度を保っている。

①木質チップを使ったボイラーで温泉の温度を保つ大浴場「季菜里龍神」の木質チップ搬入口。和歌山県田辺市龍神村



稼働して19年になる木質チップを燃料にするボイラー。和歌山県田辺市龍神村

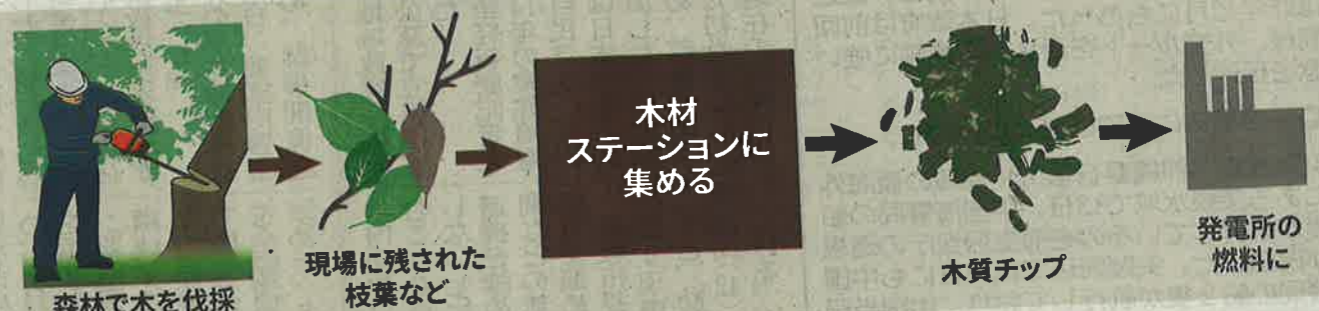


地域資源活用

和歌山県田辺市龍神村の龍神温泉で、木材の端材を加工した木質チップを燃料にしたボイラーが19年に稼働している。地域の主産業である林業で生産された木材を余すところなく使おうと始めたユニークな取り組みで、地元の森林組合が協力。木質チップは生物由来の資源「バイオマス」の一つで、化石燃料に代わる資源として注目を集めており、地元経済にも貢献している。(張英壽)



和歌山県田辺市の木材ステーション運営モデル事業のイメージ



を説明する。導入にあたっては、林野庁から出向していた村職員が予算面などで尽力したという。

林業の一助に

ボイラーに使われる木質チップは、地元の龍神村森林組合が供給している。木材加工場が出た端材を削ってチップにし、季菜里龍神に納入している。端材だけでなく、そのままでは商品にできない細い丸太もチップにして利用されている。森林開発公社によると、森林

組合の真砂佳明代表理事(組合長55)は「組合で年間数百万円の収入になっている」と話す。季菜里龍神では、木質チップボイラーのほか、補助用として灯油ボイラーも設置。木質チップはかつてに比べて価格が上昇しているが、それでも灯油より安いという。木質チップボイラーが稼働して今年で19年。手谷代表理事は「機械である以



ちゃん・よんす

和歌山支局で和歌山県南部を担当。龍神温泉は奈良県境に近い山間部にあり、取材で訪れた日、季菜里龍神の建物には雪が残っていた。寒い日に旅館で温泉に入るのは格別だ。19年にわたり温泉温度を保つために稼働し続けた木質チップボイラー。今後も活躍してほしいとエールを送りたい気持ちになった。

上、永久というわけにはいかないが、使い続けたい。地域の主産業である林業の一助になれば」と語る。

目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

エネルギーミックスでの再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。安価で信頼できるエネルギーサービスを確保する。



新聞掲載スケジュール

- 8日 兵庫・放置竹林「食材」で解決
- 10日 大阪・植物由来の食材で環境も健康も
- 11日 奈良・伝統食品で地産地消を推進
- 14日 和歌山・地域のバイオマス燃料を温泉に
- 15日 京都・間伐材から精油循環型経済目指す
- 22日 滋賀・中古バッテリー、新たなEVで再生

WEBでも読めます QRコードを読み取ると「となりのSDGs」特集